

《ご案内》 酪農公開講座



日時:2011年9月4日(日)10:00~12:00(予定)

場所:北海道ホルスタイン共進会場 屋内展示場

主催/酪農学園大学

事前にお申込みの必要はありません。
直接会場にお越しください。受講料無料

牛の見方、 飼い方、 結び方

「牛の見方について」

講師 高橋 茂 酪農学園大学 教授

「牛の見方」とは一言で言ってしまうと「良い牛」と「悪い牛」の見分け方、さらに言えばその違いを瞬時に見抜く力を養うことです。酪農家が牛乳生産をするために乳牛に何を求めているのか。外貌(体型全体を見て)から“この牛はいかにも乳が沢山出そうな体をしている”あるいは“搾りやすい乳房で乳頭の形もよい”というような見きわめを一緒に勉強してみましょう。そのためにはそれぞれの見方に基準があります。その基準をマスターして丈夫で長持ちする牛はどのような体型をしているのか。一生涯で牛乳を5万kg(酪農家の目標)生産する牛とはいかに。



「牛の結び方」

講師 青木 真理
北海道農業研究センター 主任研究員

なにげない生活の中で使われている「結び」には、道具としての用途から装飾や宗教的な意味にまで使われ、先人達の工夫や知恵の歴史が受け継がれています。畜産の現場で良く使われる頭絡は、「結び」や「編み込み」によって作られ、形状も名称も地方によって様々で、古い歴史を持ちます。特に北海道では「モクシ」と呼ばれる頭絡の、その概要から結ぶこととそれを伝えることの必要性について説明します。



「良質な餌の見分け方

- 再び注目される放牧酪農をふまえて -

講師 安宅 一夫 酪農学園大学 教授

乳牛を健康に飼い、美味しい牛乳を沢山生産してもらうには、良い餌が必要です。乳牛が食べる餌の種類は沢山ありますが、単品で完全なものはありません。一つひとつの餌が個性を持っています。上手に使えばよい餌になり、使い方を間違えると悪い餌になります。また、牧草やトウモロコシのサイレージは、作り方によって良くなったり、悪くなったりします。美味しく、力のある良い餌の見分け方を教えます。



<お問合せ> 酪農学園大学エクステンションセンター 生涯学習課
TEL 011-388-4131 FAX 011-387-2805 Email rg-ext@rakuno.ac.jp
〒069-8501 江別市文京台緑町582番地